

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02687

研究課題名(和文)「英語を」から「英語で」への学習転換—日本仕様の新しいCLILモデルの構築

研究課題名(英文) From "learning English" to "Learning through English": Developing localized CLIL models

研究代表者

楠元 洋子 (Kusumoto, Yoko)

桜美林大学・言語学系・講師

研究者番号：10749310

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ヨーロッパで既に定着しているCLIL(内容言語統合型学習)授業を視察し、教育者及び学生へのインタビュー調査を行い、日本の英語教育へのCLIL導入を試みた。さらに、Coyle et. al (2010)が提唱するCLILの構成要素である4つのCの一つのCognitionの核となる批判的思考に焦点を絞り、CLIL授業で大学生の批判的思考力が向上するか調査した。調査の結果、それぞれの環境に応じたCLIL授業の開発・導入が必要であり、批判的思考力は訓練により向上することが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study investigated the possibility of implementation of CLIL (Content and Language Integrated Learning) methodology into English as a Foreign Language context in Japanese higher education. The results of the interview of CLIL teachers and students at San Jorge University in Spain suggested that there is no one CLIL methodology that fits all contexts and thus the methodology should be adapted to each teaching environment. This study also investigated Japanese university students' critical thinking abilities in CLIL courses. The results show that students improved their critical thinking abilities with various activities, scaffolding, and training.

研究分野：言語プログラム開発・評価、第二言語習得

キーワード：内容言語統合型学習 CLIL 批判的思考態度 批判的思考力 アクティブラーニング

1. 研究開始当初の背景

日本における高校までの英語教育は、長い間英文読解と文法に偏った受験英語を中心として発展してきた。そのため、国際的に活躍できる英語コミュニケーション力を身につけるレベルには不満足である状況が続いて来た。近年、我が国は国際的に活躍できるグローバル人材育成を標榜し、大胆な教育改革を推し進めている。これに伴い 2013 年度の新学習指導要領では高校における英語は「授業は英語で行うこと」とされ、また 2013 年 12 月には「グローバル化に対応した英語教育改革の実施計画」において、中学校における英語授業でも「英語で行うことを基本とする」方針

が発表された。また、大学では、英語で専門科目授業を開講する English Medium Instruction(EMI)の導入が年々増加している。しかし、英語で講義を行える専門科目教員の不足や学生の言語運用能力に配慮しない指導により、学生のモチベーションの低下や内容の理解不足が現場では強く指摘されている(Kusumoto and Hamciuc, 2014)。

Content and Language Integrated Learning (CLIL:クリル)は、1960 年代カナダにおいて英語とフランス語の 2 つの言語で教科指導をするイマージョン教育に影響を受け、ヨーロッパで EU 域内の市民が自由に交流できるように、母国語プラス EU の 2 言語の習得を推進する教育法として採用された経緯がある。教科科目を第 2 言語で教えることを特徴として、現在ではヨーロッパを中心に広く定着している。一方、東南アジアでもグローバル化の波が押し寄せ、母国語の他に英語を第 2 言語として採用し、その教育のために CLIL を採用したが、ヨーロッパで採用されている教育法をそのまま導入したため失敗している(笹島, 2011)。本研究では、日本における外国語教育、とくにグローバル社会において国際社会で通用する英語を使用する人材を育成することは喫緊の課題となっていることから、CLIL 教育法を第 2 言語の教育法として導入し、我が国の高等教育機関における言語分野の教育改革を目指すこととした。

2. 研究の目的

本研究は、多言語環境にあるヨーロッパなどで既に定着している CLIL(内容言語統合型学習)のアクティビティについて、CLIL 導入に着手している諸国のそれと比較・参考にしながら、日本における英語教育への導入について検討することを目的の一つとした。

また、Coyle et. al (2010)が CLIL の構成要素として 4 つの C (Content 内容、

Communication コミュニケーション、Cognition 思考・認知、Culture 文化・コミュニティ)を統合し授業設計することが重要であると提唱していることから、本研究では、これらの要素の中でも Cognition の核となるクリティカル・シンキング「批判的思考能力」に焦点を絞り、日本における英語の授業に導入する方法を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、まず世界的な CLIL の状況について先行事例の文献調査研究を行った。次に CLIL が定着しているスペインの大学を視察し、CLIL 授業の見学及び CLIL 教員と学生へのインタビューを通し、CLIL 導入の現状と実践例の調査研究を行った。また、海外視察の結果を元に日本の大学にて CLIL 教育法の実践とその教育効果を測定し、CLIL の 4 つの C を統合し日本型 CLIL 教育法を確立するための基礎的研究を試みた。

(2) また、クリティカル・シンキングに関する研究では、批判的思考態度尺度(平山・楠見, 2004)及びコーネル批判的思考テスト・レベル Z (Ennis et. al, 2005)を用いて、CLIL 授業を通して大学生の批判的思考力が向上するか調査した。批判的思考能力指導の予備的实践・検証を行い、最終的には、グローバル人材育成を掲げる日本の学校教育における 批判的思考能力の育成が可能な CLIL モデルを提案した。

4. 研究成果

(1) CLIL 教育が盛んなヨーロッパ(スペイン)のサン・ホルヘ大学にて 5 科目の CLIL 授業を視察し、CLIL 授業担当教員及び学生、さらに CLIL 教師の指導担当教員にインタビューを行った。インタビュー調査の結果、CLIL という教育方法は、同一大学ないでも、実施される授業環境との間に密接な関係があることに改めて気付かされた。そのため、日本の教育機関においても、CLIL はどの大学にも共通して導入できる一つの方法ではなく、それぞれの大学の環境に合った CLIL 授業を実施する必要があることが示唆された。まず、CLIL を導入するにあたって、教育者を対象とする FD 活動など専門的研修の必要性が明らかになった。同時に、学生に対する CLIL 効果の説明及び学生の理解・支持を得る大事さも伺えた。最後に、CLIL の位置付けを経営者と一緒に行い、保護者の理解も促し、大学関係者全員に実施し、効果を最大化させることが鍵だと分かった。

本研究では、教育者及び学習者に視点を絞り、CLIL 導入の基礎となるようなプログラム開発を試みた。2016 年、2017 年には CLIL 授業におけるアクティブ・ラーニング、授業運営・教授方法、さらにクリティカル・シンキングの英語授業への導入・実施方法について、活発な研究活動を行い、それについて研究発表を行った。特に CLIL の授業内容・テーマに合った授業計画の一環として、タスクやプロジェクトを含むアクティビティを数多く作成・実施し、平山・楠見 (2004) の研究に基づき、

- a. 論理的思考への自覚、
- b. 探究心、
- c. 客観性、
- d. 証拠の重視

の 4 つの批判的思考態度を支える態度因子を育成するための活動にそれぞれ分類した。学習分野・内容毎に少し偏りが見られたものの、部分的に批判的思考態度が改善された結果となった。また、1 因子 1 活動と言うように、4 因子を完全に引き離して活動を企画することは難しく、それぞれのアクティビティの効果への貢献度を測ることも不可能だと明らかになった。

(2) そして、「批判的思考能力」に焦点を絞り、日本の大学における英語の授業に導入する方法を検証した。楠元 (2018) の行ったコーネル批判的思考テストの結果、6 カテゴリーの内、日本人大学生が苦手とする「批判的思考能力」の 3 要素が明らかになった。その結果をもとに、より弱い「批判的思考能力」をどう授業中に向上させるかを分析し、「ロジカル・シンキング」(論理的思考能力) 育成の必要性にたどり着いた。論理学の基本的な概念や手法をいくつか選び、主に論議の構成要素や誤った推論の例を含む「ロジカル・シンキング」プログラムを考案した。それを研究者二人で共有し、合計 100 人を超える大学生に英語の授業内で受けさせ、学期初め及び学期末に 2 回ずつデータ収集を行った。データは、批判的思考態度尺度 (平山・楠見, 2004) 及びコーネル批判的思考テスト・レベル Z (Ennis et. al, 2005) を使用し収集・分析した。事前・事後テストの結果、「ロジカル・シンキング」が育成され、学期初めと比べ学期末の方が「批判的思考能力」全体に改善が見られた。

これによって、CLIL (内容言語統合型学習) のみならず、一般的な EFL (外国語としての英語) の授業においても Coyle et. al (2010) が提唱する 4Cs の Cognition の重要な構成要素である「批判的思考能力」を育成することが可能であることが示唆された。また、研究の成果発表によって、研究者が開

発した論理的思考プログラムやクリティカル・シンキングへの関心が高まり、今後大学授業への導入が増えることが期待できる。

< 引用文献 >

- Coyle, D, Hood, P. & Marsh, D. 2010. *CLIL: Content and Language Integrated Learning*. Cambridge, England: Cambridge University Press.
- Ennis, R H., Millman, J. & Tomko, T. 2005. *Cornell critical thinking tests level X and Z Manual (5th Edition)*. Seaside, CA: The Critical Thinking Company.
- Hirayama, R. & Kusumi, T. 2004. Effect of critical thinking disposition on interpretation of controversial issues: evaluating evidence and drawing conclusion. *The Japanese Association of Educational Psychology Journal*, 52. 186-198.
- Kusumoto, Y. 2018. Enhancing critical thinking through active learning. *Language Learning in Higher Education*, 8(1), 45-63.
- Kusumoto, Y. & Hamciu, M. 2014. *Bridging EFL and English Medium Instruction*. Paper accepted for presentation at the JALT International Conference

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

Monica Hamciu, Yoko Kusumoto
The impact of training on critical thinking development in college students.
九州英語教育学会紀要、査読有、第 46 号、2018、1-10

Monica Hamciu. EMI in Japan: Teacher and Student Perspectives.
九州英語教育学会紀要、査読有、第 45 号、2017、87-91

[学会発表] (計 9 件)

Yoko Kusumoto & Monica Hamciu
Enhancing CLIL lessons with active learning and critical thinking, The 14th Annual CamTESOL Conference, Cambodia, 2018

Monica Hamciuc & Yoko Kusumoto

A framework for professional development of CLIL & EMI university instructors in Japan, The 16th Annual Hawaii International Conference on Education, Hawaii, 2018

Monica Hamciuc & Yoko Kusumoto

The Impact of Training on Critical Thinking Development in College Students,九州英語教育学会, Okinawa, 2017

Yoko Kusumoto & Monica Hamciuc

Active Learning Strategies and Critical Thinking Development in CLIL College Courses, The 5th ICLHE Conference, Copenhagen, 2017

Monica Hamciuc & Yoko Kusumoto

Logical Thinking Module Design for Critical Thinking Development, JALT PanSIG Conference, Akita, 2017

Monica Hamciuc & Yoko Kusumoto

Classroom Strategies to Foster Critical Thinking, JALT, Nagoya, 2016

Yoko Kusumoto & Monica Hamciuc

Enhancing Thinking Skills Through Active Learning, CercleS International Conference, Italy, 2016

Yoko Kusumoto

From EFL course to CLIL course, The 17th LAKMA International Conference, 2015

Monica Hamciuc

CLIL- Developing Class Materials for a Religion & English Course Taught to EFL Learners, THT Bangladesh-Dhaka, 2015

6 . 研究組織

(1)研究代表者

楠元 洋子 (KUSUMOTO, Yoko)
桜美林大学・グローバルコミュニケーション学群・講師
研究者番号 : 10749310

(2)研究分担者

ハムチュック モニカ (HAMCIUC, Monica)
鹿児島大学・共通教育センター・准教授
研究者番号 : 70721124